

令和3年度 学校評価結果及び保護者アンケート結果

1 集約結果

(1) 対 象 : ①本校保護者(家庭数) 166名 ②本校職員 107名 (2) 期 間 : ①本校保護者対象 令和3年12月7日(火)～17日(金) ②本校職員対象 令和2年12月15日(水)～24日(金) (3) 調査方法: ①本校保護者 評価項目を抽出したマークシート方式による回答。 ②本校職員 office365 Formsのアンケート機能による電子入力回答。 いずれも、“できている(4)” “ほぼできている(3)” “あまりできていない(2)” “できていない(1)”の四件法により実施した。 (4) 評価基準: “できている(4)” “ほぼできている(3)”の占める割合が80%以上はA 80%未満60%以上はB 60%未満はC とした。				職員自己評価			保護者結果			
				2年度		令和3年度	2年度		令和3年度	
				105		107	132		113	
				96%		100%	86%		68%	
領域	評価項目	NO	実践目標(及び成果)		評価	評価	A+B割合	評価	評価	A+B割合
I 学校経営	ア 家庭や地域との連携	1	保護者や地域住民が参画しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。		B	A	88.8%			
		2	家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。		A	A	90.7%	B	B	79.6%
		3	学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発信する。		A	A	89.7%	B	B	72.6%
	イ 知肢併置校としての整備推進	4	知肢併置校としての教育内容や教育環境についての協議や研修を行う。		B	B	79.4%			
		5	県・市教委、友生支援学校やあじさい学園などの諸学校と連携し課題に取り組む。		C	B	65.4%			
	ウ 進路指導体制の充実	6	卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。		A	A	87.9%	B	B	77.9%
		7	将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。		B	A	80.4%	B	B	74.3%
	エ 実践的指導力と専門性の向上	8	教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。		A	A	84.1%			
		9	一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。		A	A	83.2%			
	オ 危機管理体制の充実	10	障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。		B	B	74.8%			
		11	危機管理マニュアルを活用し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を実施する。		A	A	86.0%	A	B	75.2%
	個人情報の保護		12	児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理している。		A	A	97.2%		
○職員自己評価において、昨年度から評価の上がった項目について ・ア-1、イ-5、「学校の新しい生活様式」や県からの通知等に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、工夫をして各行事を実施したり、市・県教育委員会や諸学校との連携を図ったりしたためと考える。 ・ウ-7 職員研修により、進路についての課題意識をもって取り組んだ職員が増えていると考える。 ○職員自己評価と保護者の結果に差異がある項目について ・ア-2 家庭や地域との連携に関する項目について、保護者との信頼関係や連携、情報共有に課題があると考えられる。 ・ア-3 「ホームページ利用アンケート」によると、「ホームページを見ていない」が50パーセント以上であった。今後はホームページや毎日更新しているブログ等の内容を充実させるとともに、地域や保護者の方が利用しやすいよう、工夫を検討する必要があると考える。 ・ウ-6、ウ-7 進路指導に関する項目について、個々の児童生徒に応じた進路指導について十分な情報提供を行い、関係機関との連携を深めることで一層の充実を図る。										
II 教育課程	カ 一貫教育の推進	13	小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。		C	B	65.4%	B	B	72.6%
	キ 個別的教育支援計画の活用	14	児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。		A	A	80.4%	A	A	86.7%
	ク 個別の指導計画による指導の充実	15	個別的教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。		A	A	91.6%	A	A	85.0%
	ケ 指導方法や指導体制の工夫	16	各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。		A	A	89.7%			
		17	個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。		A	A	87.9%			
	コ 体験活動	18	教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。		A	B	79.4%	A	A	90.3%
		19	家庭生活や地域生活に結びつけた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。		A	B	73.8%	B	B	73.5%
	サ 集団活動	20	豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。		B	B	72.9%	A	B	74.3%
	○職員自己評価において、昨年度から評価の上がった項目について ・カ-13 各学部の縦の連携についての研修や、公開授業等により、他学部の支援指導を意識して取り組む職員が増えていると考える。 ・キ-14、ク-15が職員自己評価、保護者ともに高評価なので、今後は個別的教育支援計画および個別の指導計画を引継ぎで活用することで、連続した支援・指導の一層の充実を図る。 ○職員自己評価において、昨年度から評価の下がった項目について ・コ-18、コ-19 体験活動に関する項目について、新型コロナウイルス感染症への対策により、中止や変更、制約により、体験活動の機会が減ったことが原因であると考えられる。									
III 課題教育	シ 人権教育の推進	21	児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。		A	A	87.9%	A	A	81.4%
	ス 人権意識の向上	22	人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のチェックリストを定期的に実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。		A	A	85.0%			
	セ 居住地校交流及び学校間交流の推進	23	年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかりと打ち合わせを行って実施する。		A	A	86.9%			
	ソ 地域との交流	24	土曜なかよし活動(年2回)、神養まつり、交流鑑賞会等の参加を地域や近隣校に呼びかけ、継続的な交流で地域への啓発を図る。		C	C	55.1%	A	A	88.5%
	タ 食育の推進	25	教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。		A	A	83.2%	A	A	90.3%
	チ 校外支援の取組	26	地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。		A	A	89.7%			
		27	地域自立支援協議会等の関係機関と連携して講演会や進路セミナーを開催し、地域への理解啓発を推進する。		B	A	81.3%			
○ソ-24 新型コロナウイルス感染症への対策により、中止または大きな制約を受けたことが原因であると考えられる。 ○その他、全体的に高評価であったのは、感染症対策による制約がある中で取組の意義を見直し、創意工夫することで意識が高まったためと考える。										
IV 感染症対策	ツ 健康管理	28	児童生徒の体調の変化等の観察を行い、感染症等に関する情報収集に努め、学校医、学校薬剤師等と連携しながら予防対策を徹底する。		A	A	93.5%	A	A	93.8%
	テ 学習保障	29	ICTを効果的に活用し、個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導・支援や、双方向による学習活動等の取り組みを推進する。		A	A	86.9%	B	A	81.4%
○ソ-28 感染症についての地域の感染状況や県の通知等の情報を職員全体で共通理解し、学校医や学校薬剤師と連携しながら、消毒や換気の徹底、健康観察等を職員全体で共通実践できた。 ○テ-29 各家庭のインターネット等の通信環境および個々の児童生徒に対応して、ICTを活用した双方向による学習活動等の取組を取り入れることができた。今後はICTの効果的										

2 保護者アンケート自由記述

- 学部ごとの入れ替え制や分割して別日に設定など、今年度のコロナ禍における行事の工夫を次年度にも引き継いでほしい。
- コロナ禍で地域との連携に関しては難しさがあったが、収束後は活動が再開されることと期待している。
- 十分に引継ぎ等を行い、児童生徒が安心して学校生活が送れることを望む。
- 感染症対策を徹底してほしい。また、児童生徒については個々の実態に応じて対応してほしい。

3 評価結果をふまえた今後の改善方策

- 保護者といっそうの情報共有と共通理解を進め、よりニーズに合った教育活動の充実を図る。
- 校内研修の充実、自己研鑽により、専門性及び指導力の向上を図る。
- 地域交流のあり方について再考し、コロナ禍においても継続して地域・関係機関との連携を図る。
- ホームページやブログ等、ICTを有効活用し、保護者や地域のニーズに合った情報発信に努める。